



病院創立30周年病院増改築事業完了～ 電子カルテシステム稼働へ

約2年間にわたり行ってきました病院増改築事業がこの2月に完了します。この間、患者の皆さま、地域の皆さまには深いご理解とご協力をいただきました。本当にありがとうございました。この工事で当院は、医療機能、医療施設・設備の両面について、今日までの30年間の見直しに取り組んできました。増改築に入る前段階では排煙窓の拡充をはじめとする防火・防災体制の見直しと改修工事を実施しました。増築工事では回復期リハビリテーション病棟を拡充し、それまでの60床1看護単位から40床2看護単位へと回復期リハビリテーション病棟機能の強化・充実を図りました。今日では県下唯一の「回復期リハビリテーション病棟入院料 1.」の基準取得病棟となっています。あわせて、療養病棟の整備にも取り組み、食堂・談話室の新たな設置、トイレの改修等療養環境の改善・アメニティの充実を行いました。また、今後広く地域の皆さまのさまざまな交流の場として活用いただけるように、あるいは当院職員、地域の医療福祉従事者の教育・研修の拠点として、200名収容可能な「地域研修センター」を設けました。病院機能の充実にあわせ、職員食堂・休憩室、更衣室の拡充等、院内福利厚生の改善にも取り組ませていただきました。改修工事の中心は「外来診療ゾーン」の全面リニューアルにありました。外来診察室・待合室は手狭なA棟1階から、約2.5倍の面積を確保したC棟1階へと

移転し、ゆったりと診察までの時間をお過ごしいただけるようになりました。外来診察室も広くなり、感染症患者対応診察室も設けることができました。病院正面玄関も様変わりし、外来患者さまをゆとりあるエントランスホールがお迎えします。加えて改修工事では「通所リハビリテーション」を拡充しました。これは今後ますます需要が高まるであろう地域のみなさまの通所リハビリテーションへのご要望にお応えしようとするものです。現在定員は40名ですが、今回の改修工事により、80名までの利用者さまへの対応が可能となります。「リハビリテーションで地域と結び合い、つながる」という当院の基本方針のさらなる実践をめざします。

さて、前述のように病院創立30年を契機に取り組みました増改築事業はこの2月に完了を迎えますが、その一方当院では現在、ICT（情報通信技術）を活用した医療情報システム（「電子カルテシステム」）の導入に取り組んでいます。3月1日の本稼働めざして、全職員上げての電子カルテ操作教育が今日も展開されています。電子カルテ稼働にともない、今までの「病院業務の流れ・仕事のやり方」「患者さまへの対応の方法」等が変わってくる可能性があります。リハーサルを行い、変化へのシミュレーションを行うなどの稼働前準備に取り組んでいますが、患者さまには慣れない故のご迷惑を多々おかけすることになるかと思えます。どうかご理解とご協力を切にお願いいたします。

この春、琵琶湖中央病院は次のステージへと新たなチャレンジを始めます。

